様式3

学 校 番 号

59

令和 5 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立糸島高等学校（定時制）

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

評　価（総　合）

学校運営方針	国家・社会における有能な人材たるべき資質の育成に努める。また、勤労の貴さを知り、国際的な幅広い視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与し、心身ともに豊かでたくましい若者の育成を期する。	
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標
生徒への積極的な働きかけで、生徒・保護者との良好な関係が構築され、学校は非常に落ち着いている。授業面においては、教務部を中心としてＩＴＣ環境の整備や教員の指導力の向上を図ることができた。職員研修を通して、更にＩＣＴ活用による授業改善を進めたい。生徒の特性に応じた個別の支援については、更に充実させる必要がある。就職支援については、進路指導部を中心に充実した支援を行った。ハローワークを通しての正規雇用を強く奨励し、正規雇用を増加させたい。また、本校定時制課程の魅力を多くの人に伝える広報活動にも力を入れる必要がある。	就業と就学を両立させるための強い意志と努力の精神を養う。	・家庭との連携を密にし、保護者や専門機関と協力して生徒の悩みや不安の早期把握に努め、きめ細かい支援を通して生徒の学校生活の充実に努める。
		・授業規律を重視し、落ち着いて学習に取り組める環境づくりに努め、基礎学力の定着を図る。キャリア教育を充実させ、自らの将来を真剣に考える生徒を育てる。
	他人の個性を尊重する態度を養い、同時に自己の長所の伸長に努めさせ、自己肯定感を養う。	・「いじめは人として絶対に許されない」という強い認識の下、あらゆる機会を通して好ましい人間関係づくりに取り組み、いじめの未然防止に努める。
		・学校行事への積極的な参加を通して帰属意識を育むとともに、自らの長所に気付かせ、自己肯定感の涵養を図る。
	高い規範意識を持たせ、明朗で協調性のある人物の育成を図る。	・社会規範やマナーを意識させ、その場にふさわしい行動ができる生徒を育成する。
		・生徒会活動や部活動の活性化を図り、自主性や協調性を育む。
		・学校行事やホームルーム活動を通して、思いやりを持ち、協力し合う関係を構築する。

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
生徒指導	生徒が安心して、毎日安全に登校できる環境を整備する。	あらゆる場面で他者に迷惑をかけない、他者への思いやりを大事にするという指導を徹底し、いじめの未然防止・早期発見に努める。				
		家庭訪問や職場訪問、個人面談を通して、生徒の生活環境を的確に把握し、必要な援助等を行い怠学や退学の防止に努める。				
	規範意識を身に付けさせる。	年５回の規範意識育成学習を立案し、円滑に運営する。				
		交通安全教室や校門等での指導を通して、交通法規の順守やマナーを理解させ、生徒の無事故、無違反を目指す。				
学習・研修	生徒が意欲的に学習に取り組めるよう授業改善に努める。観点別評価により生徒の学習意欲を喚起し、ICT機器を活用してより効果的な授業の研究を進める。	効果的な観点別評価及びＩＣＴ活用についての研修等を通して、アクティブ・ラーニングの視点に立った、授業改善に取り組む。				
		学級担任と協力してきめ細やかな指導を実施し、基礎学力の定着を図り、年度末の追考査受験生徒の減少を目指す。				
	教育相談を重視して、落ち着いた学習環境を整え、生徒の学習意欲の喚起を促す。また、中学校、行政と連携し、生徒の全人的な実態把握に努め、中途退学を防止する。	全職員が授業規律に対して共通認識を持って指導を行い、「授業を大切に考える」生徒を育成する。				
		生徒連絡会、職場訪問、中高連絡会等を充実させ、その時々の生徒の状況の共有化を図る。また、教育相談に関する職員研修を実施し、生徒の学校生活の充実を図る。				
進路指導	将来の進路について、自ら積極的に考える態度を養うことで具体的な目標が持てるようにする。併せて望ましい勤労観を身に付けさせる。	ＨＲ等を利用して実施する進路学習や卒業生講演会、進路ガイダンス等を通じて、将来の進路についてより具体的にイメージできるような指導を行う。				
		就職希望者には、ハローワークや民間就職支援会社等と連携しながら、就職セミナーや面談、会社見学等、積極的な進路支援を行い正規雇用に対する意識を高める。進学希望者には、学校見学参加を積極的に推奨する。				
	働くことの意義を理解させ、在学中から積極的に就業を奨励し、卒業後の人生や進路に活かせるように指導する。	生徒の就業状況を把握するとともに、アルバイトの情報等を積極的に提供し就業を勧める。また、生徒の努力している姿を積極的に公開し、中学校や保護者への広報活動に活かす。				
		夏季休業中の職場訪問を全職員で実施して、生徒の就業実態の把握と雇用の拡大を図る。				
部活動	部活動の参加意識を高め、日々の活動を通してより良い人格形成に努める。	部活動を通して協調性を高め、定通部大会で日々の活動の成果を発揮させることにより自己肯定感を高める。また、その取組の成果や反省を学校生活や社会生活で活かせるように指導する。				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は Ａ ： 適切である Ｂ ： 概ね適切である Ｃ ： やや適切である Ｄ ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目以外のものに関する意見

・
・